

フォーラム 「子どもの貧困 を考える」

定員 **300**名
参加費
無料

—北海道・札幌市における子どもの生活実態調査から—

昨年度、北海道大学・北海道と札幌市は「子どもの生活実態調査」を行いました。調査票の記入にご協力いただいた方が約2万4千人という大規模なものです。今回、この結果の概要を報告し、子どもの貧困対策を考えるフォーラムを開催します。あわせて、テーマを絞った連続フォーラムを行います（裏面参照）。ぜひご参加ください。

開催概要

- 日時 平成29年**12月16日(土)** 13:00～16:00（12:00開場）
- 会場 北海道大学 学術交流会館 講堂（札幌市北区北8西5 正門入ってすぐ左、駐車スペースなし）
- 対象 関心のある方どなたでも ※参加無料、託児あり（要申込）、要約筆記あり
- 主催 北海道、札幌市、北海道大学大学院教育学研究院「子どもの生活実態調査」研究班
- 共催 北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター、北海道新聞社
- 後援 北海道経済連合会、北海道経済同友会、一般社団法人北海道商工会議所連合会（予定）北海道商工会連合会、北海道中小企業団体中央会

プログラム

第1部	挨拶	北海道／札幌市／北海道大学大学院教育学研究院
	報告	「調査からみる子どもの貧困」 松本 伊智朗（北海道大学教授、研究班代表） 調査結果の概要と論点を示します。
第2部	パネル ディス カッシ ョン	「北海道の子どもの貧困対策を考える」 調査結果をもとに、行政担当者、研究者、市民活動の立場から報告し、子どもの貧困対策のあり方を探ります。 ◎パネリスト 北海道子ども未来推進局、札幌市子ども育成部 山野 良一 氏（名寄市立大学教授）、辻 智子 氏（北海道大学准教授） 高橋 勇造 氏（NPO法人Kacotam理事長）、村尾 政樹 氏（(公財)あすのば事務局長） ◎司会 松本 伊智朗

■ 参加申込（平成29年**12月6日(水)** 締め切り）

Web <https://www.harp.lg.jp/sdwnhvtg> ※携帯電話・スマートフォンからはこちら →

FAX 011-232-4240 下記の申込書にご記入の上、送信してください。

※ 締め切りを超えた場合でも定員に満たない場合は、随時受け付けし、当日参加も受け付けます。



氏名（ふりがな）	連絡先（電話またはE-mail）	
託児利用 （事前申込のみ） 有・無	託児されるお子様の年齢と人数	ご所属など

北海道の子どもの生活と貧困

北海道大学・北海道と札幌市による大規模調査に基づくフォーラム「子どもの貧困を考える」（表面参照）に先立ち、テーマを絞った連続フォーラムを開催します。調査の企画、分析にあたっている研究者が、それぞれの専門領域から調査結果を分析し、皆さんとともに子どもの貧困について考えたいと思います。ぜひご参加ください。

申込不要

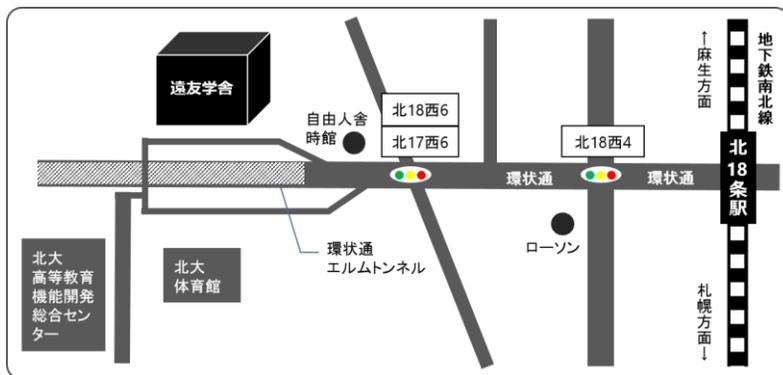
当日先着**100名**

会場 北海道大学内遠友学舎

(札幌市北区北18西6 地下鉄南北線「北18条」駅徒歩10分)

対象 関心のある方どなたでも

参加費 無料



■主催 北海道大学大学院教育学研究院
「子どもの生活実態調査」研究班

■共催 北海道大学大学院教育学研究院
附属子ども発達臨床研究センター

■後援 北海道、札幌市、北海道新聞社

第1回

テーマ

家族・生活

11月23日(木) 10:00~12:10

**子どもの貧困研究の枠組みと課題
子育て家族の仕事と家計**

松本 伊智朗 (北海道大学・教育福祉論)
鳥山 まどか (北海道大学・教育福祉論)

第2回

テーマ

子育て・健康

11月23日(木) 13:00~15:10

**乳幼児期の子育てと環境
子どもと家族の健康と疾病・障害**

川田 学 (北海道大学・乳幼児発達論)
関 あゆみ (北海道大学・学習神経心理学)

第3回

テーマ

学校・進学

11月30日(木) 18:20~20:30

**子どもの学びと学級
進学・所得・地域**

大谷 和大 (北海道大学・教育心理学)
上山 浩次郎 (北海道大学・教育社会学)

第4回

テーマ

経験・発達

12月7日(木) 18:20~20:30

**子ども期の生活と経験
子どもの貧困と発達**

大澤 真平 (札幌学院大学・児童福祉論)
加藤 弘通 (北海道大学・発達心理学)



子連れ参加を歓迎します。
会場には子どものためのスペースを用意します。
託児ではありませんが、保育スタッフや大学生のボランティアもいます。



建物入口にはスロープがあります。
館内はフラットです。
広い多目的トイレもあります。